

活動実施計画書

団体名： MACHIKOYA 守山大森

1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

＜構想づくり活動助成＞

【B-2-1】にぎわいを創出する交流機能の強化「まちのにぎわいを創出するみちまちづくりの推進」

【C-5-1】防災意識の向上「自助・共助の推進」

【G-1-2】イノベーションの創出「価値づくりの促進」

本構想では、名古屋市都市計画マスタープラン 2030 の重点方針に掲げられている「みちまちづくりの推進」「防災力の向上」「地域発イノベーションの促進」を基盤に据え、守山区の地域特性を生かした将来構想をつくるものである。

2 活動地域の特性、現況、課題

守山区は、名古屋市の中でも比較的郊外に位置し、豊かな自然環境と住宅地が広がるエリアである。特に守山区唯一の鉄道路線である名鉄瀬戸線沿線には、歴史あるまち並みと新興住宅地が混在し、地域の多様性とポテンシャルが共存している。しかしながら、近年では若年層の地域離れや、商店街の空洞化、地域内コミュニティの希薄化といった課題が顕在化している。こうした状況の中、地域住民が日常的に関わりを持ち、共に学び合うことができる公共性のある空間や仕組みは不足しており、また、現在は自治会が中心となり堅持されている自助共助の仕組み、人口構造の観点から将来、担い手不足が課題となる可能性がある。

特に、当団体の活動地域である大森中学校学区（以下「大森学区」という。）が位置する「名鉄瀬戸線 大森・金城学院前駅」周辺は、金城学院大学に近接しているものの、学生と地域社会との接点は限られているという課題がある。その結果、学生が地域へ愛着を持つことは少なく、学びの場と暮らしの場が分断されている。さらに、学生に限らず地域住民と若者世代との交流機会は多くはなく、他所と同様に世代間のギャップも存在している。このような状況を打開するためには、地域資源や教育資源を有機的に連携させ、**地域住民の中にキーパーソンを発見し、より柔軟なネットワークを若者と地域が共に未来を描く共創型のまちづくりが求められ、「持続可能な大森学区」を創造する必要がある。**

3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

当団体は、名鉄瀬戸線「大森・金城学院前駅」周辺を中心とした大森学区において、子ども・学生・地域住民が世代や立場を超えて学び合い・関わり合う地域づくりを目指し、2023 年度に活動を開始した。活動初期は 5 名での立ち上げだったが、地域の飲食店、企業、学校（小中学校、高校、大学）など多様な主体との連携を重ね、現在では運営 10 名体制に加え、多数のボランティアスタッフで運営しており、守山区初の地域まちづくり活動団体（第 47 号）として登録されている。

【2023 年度】

- 2 月：「おにぎり会議」（参加者 46 名）を実施。地域資源である大森寺の見学を含む、地域課題と理想のまち像を語り合う対話の場を提供。

- 地域・学校関係者を中心に関係人口の拡大を意識した「TERAKOYA プロジェクト」として活動開始。

【2024 年度】

- 5 月・8 月：「教え方の学校」イベント（延べ参加者 210 名）を開催。教職員・保護者・地域住民が「教える技術」を学び、共育の場を形成。
- 9 月：守山区地域まちづくり活動団体として登録（第 47 号）。
- 10 月：大森地区 11 店舗協力のハロウィーンウォークイベント（参加者 210 名）を実施。
- 11 月：駅構内空き店舗を活用したサードプレイス「MACHIKOYA」を正式開所。クラウドファンディング支援者 235 名を得て、地域とともに空間を創出。
- 1 月～3 月：守山区主催の「子ども実行委員会」取材拠点、Talk Live Session（参加者 85 名＋オンライン 22 名）、金城学院大学ゼミとの共催イベント、地域店舗と連携した「ワクワクフェス」（動員 245 名）等を通じて、大学・商店・行政・住民との多面的な協働を実現。

これらの活動を通じて、単なるイベントの開催にとどまらず、地域内外のつながりを育む「学びと共創の場づくり」を継続的に実践している。

4 助成を受けようとする活動の目的

今回の助成申請により実施を目指す構想づくりの活動は、大森学区を舞台とし、子どもや学生といった次世代を担う若者たちが地域に関わり、愛着と希望を持って将来も暮らし続けたいと思える地域社会の実現に向けた「未来の暮らしと学びのビジョン」を描くことである。単なる施策提案やイベント企画に留まらず、地域の資源、課題、キーパーソンとなる人材を有機的、横断的に結びつける構想を策定し、地域と若者が共に育ち合うまちづくりの核を柔軟に形成することを目的とする。

また、地域の声を取り入れながら実現可能性の高い計画として練り上げるために、地元大学の学生、教育機関の関係者、地域自治会、行政職員、専門家等との協働の場を多数設け**関心層を見極め**、合意形成と創発的対話を重ねる。平時のみならず災害発生時等の非常時についても対話を重ね、こうしたプロセスを経ることで、将来的には地域住民と若者世代が共に運営・発展させる持続可能なまちづくりプロジェクトへとつながる構想を目指している。

5 活動による今年度の成果目標

- ① 沿線の高校・大学の学生と地域住民等を巻き込んだ構想ワークショップやまち歩きを 5 回以上開催し、参加者数累計 100 名以上を達成していること。
- ② アンケート調査およびヒアリングにより、100 名以上の多様な意見とニーズ、**関心層の情報**を収集・分析し、地域の課題と期待を把握していること。
- ③ 構想案を図解・文章でまとめた「未来の大森地区ビジョンマップ」を冊子・ポスター等で制作し、地域の駅・施設等で配布・掲示できていること。
- ④ 協力機関（大学・自治体・市民団体など）と連携した協議体を組織し、**地域住民の中に存在する関心層やキーパーソンとなる人物とともに次年度以降の実践活動助成申請を見据えた中期的かつ柔軟な実施体制の構築**できていること。

※ この様式は公開されます。

6 助成を受けようとする今年度の活動内容

- ① 構想キックオフイベント（MACHIKOYA）：地域住民・学生・行政関係者等の意見交換（6月）
- ② まち歩き調査・地域資源発掘ワーク：沿線の課題・魅力の可視化（6月～12月）
- ③ 学生・地域住民との共創ワークショップ（6月～12月）
- ④ 大学・自治会・専門家による懇談会・検討会（6～12月）
- ⑤ 中間報告会・構想素案提示（12月）
- ⑥ 構想最終案と成果物の制作・発表（2月）

7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

- ・金城学院大学、名古屋産業大学、名城大学、南山大学等（学生参加・研究協力）
- ・大森/天子田自治会（地域住民とのつなぎ手、防災的視点構築）
- ・大森/天子田小学校（名古屋コミュニティスクールとして連携）
- ・守山区役所（地域連携、防災的視点構築支援）
- ・守山商工会/大森商工振興会/天子田発展会（近隣の民間企業との連携）
- ・名古屋鉄道（駅構内活用に関する調整）

8 今年度の活動内容のスケジュール

月	活動内容	詳細
4	・構想策定準備①	・運営メンバーにおいて MACHIKOYA のこれまでの活動を振り返り、今後の活動内容を整理。
5	・構想策定準備②	・構想の方針を整理。 ・大学、自治会、小学校と連携協定の締結見込み
6	・構想キックオフイベント ・第1回まち歩き調査	・地域住民・学生・行政関係者等が MACHIKOYA に集まり、活動の趣旨や今後の展開について共有。沿線のまちづくりの方向性を対話形式で確認。 ・学生と地域住民がグループで大森・金城学院前駅周辺を歩き、地域資源や課題を発見・記録。まちの魅力を写真やマップで可視化。
7	・第2回まち歩き＋地域資源の整理（ワークショップ形式）	・調査結果をもとに地域資源マップの作成を開始。課題・魅力・活用可能資源をワークで分類・分析。
8	・第1回共創ワークショップ with 高野氏・谷村氏	・地域の課題をテーマに学生と住民が混成チームで意見交換。暮らし・福祉・交通・教育など多様な視点から未来像を描きながら、 関心層と地域のキーパーソンとなる人物を発見する。
9	・第3回まち歩き（別エリア対象）＋地域資源の整理（ワークショップ形式）	・守山区内別エリア（例：印場、喜多山方面）での現地調査を実施し、比較・発見を広げる。
10	・第2回共創ワークショップ	・「将来戻ってきたいくなるまち」等をテーマにアイデアを出し

※ この様式は公開されます。

	with 高野氏・谷村氏	合い、構想に取り入れるための案を深掘り。
11	・ 構想素案の整理と内部共有	・ これまでの活動成果をとりまとめ、ビジョンマップ・素案作成に向けた骨子を検討。協力団体とも意見調整。
12	・ 第3回共創ワークショップ ・ 中間報告会	・ 素案に対する住民や学生の意見を聞き、反映すべき要素を話し合う。映像や図を交えて発表形式で共有。 ・ 構想素案を地域・行政・大学等に向けて発表。意見交換とフィードバックを受け、最終構想へとつなげる。
1	・ 専門家へのヒアリング	まちづくり領域の第三者専門家・実践家に意見聴取を行い、客観性、専門性、柔軟性の観点からの完成度を高める。(3名程度)
2	・ 最終まとめ	・ 構想について最終まとめを行い、報告書とビジョンポスターを印刷物として制作し、報告会を実施。
3	・ 広報	・ 近隣の学校や銀行などを含めた一般企業の協力を経て、報告書及びポスター等を用いて広報を実施。

9 (構想策定・実践目的達成) までの想定プロセスと以後の展望

【短期（本年度）】

本構想では、地域住民・学生・行政・大学等が対話と協働を通じて、大森学区の地域課題や資源、**関心層や地域のキーパーソンを発見し、把握・整理し、まちの未来像を描く「共創型構想」の策定**を行う。まち歩きやワークショップ、中間報告会を通じて多様な視点を集め、最終的に構想案としてビジョンマップや冊子にまとめる。

【中期（1～3年後）】

構想で得られた成果を基に、実践活動助成や他の補助制度を活用し、地域イベント、防災啓発、学びの場づくりなど具体的な取組へと展開する。また、より持続的な遂行力を持った組織となるべくエリアマネジメント会社として非営利型の一般社団法人化を目指す。その上で、大学や地域団体と連携した常設活動や、定期的なまちづくり協議の場を設け、地域の担い手育成と主体的な地域活動の定着を図る。

【長期（5年後以降）】

MACHIKOYA を核とした、世代や立場を超えて交流・協働できる地域拠点が確立し、地域の継続的な課題解決や価値創出が可能な社会的インフラとして機能する状態を目指す。将来的には大森学区で確立した MACHIKOYA モデルを名古屋市内（特に瀬戸線沿線）の同様の課題を持つ地域へ横展開できるように広域的なまちづくりネットワークの形成を行う。さらには行政施策への反映を目指した活動を行うとともに、まちを象徴する全世代参加型の定期イベントを毎年継続開催できる姿を実現する。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、4 ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。